

サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	市民部 (UD・男女共同参画課)
2 協議事項 (案件名)	“女性に選ばれるまちプロジェクト”について
3 背景・現状 (現状把握できる統計数値など)	・人口減少は少子高齢化だけが要因ではなく、本市においては若い女性の転出超過も大きな要因の一つである。 ・本市の総人口の女性比率は、政令指定都市で下から3番目に低く、15-29歳の女性比率が最も低い(2020年:47.5%)。また、20-24歳では男性が転入超過であるのに対し、女性は転出超過である。 ・2023年度からシャープ(株)と共同で、防災備蓄品を活用した生理用ナプキンのディスペンサー設置の社会実装に向けた実証実験を開始。 ・2024.4.1「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行。
4 検討経過・課題	・2021年度 はまつの「生理」を学ぶプロジェクトにおいて、市民アンケートや若年層等との意見交換を実施。 ・2022年度 ミモザプロジェクトにおいて、女性職員を中心としたプロジェクトチームを発足し、女性特有の体の悩みや職場での理解不足などの課題解決を図った。 ・2023年度 ミモザプロジェクトの延長として、男性職員も含めて庁内組織活性化研修を実施。 ・2024年度 官民連携で推進するため、政策トライアル推進事業を活用し、市内企業等に女性に選ばれる地域づくりに関する意識調査を実施中。 ・若い女性が進学等で転出し、浜松市に戻ってこないことが一番の課題。 ・「女性に優しい、暮らしやすいまち」を推進することで、一度転出しても、また浜松市に戻りたいという意識を醸成する必要がある。 ・持続的な都市経営・地方創生の観点から、全ての部局において男女共同参画の視点で女性を意識した施策を展開していくことが必要。 ・庁内関係課(危機管理課、企画課、広聴広報課、産業振興課、スタートアップ推進課、市民協働・地域政策課、こども若者政策課 等)と連携を強化し、横断的に事業を実施する必要がある。
5-1 方向性の提案(目指すべき姿)	女性的心里に向き合う政策を推進し、「女性に選ばれるまち」を目指すことにより、女性の転出超過及び人口減少の抑制を図る。
5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項(妥当性、必要性、有効性など)	女性に選ばれるまちプロジェクトとして、女性が生き生きと輝き、暮らしやすいWell-Beingな環境を整備するために行う下記事業の是非。 ・(情報) 女性に関する情報を集約したポータルサイト構築 ・(生活) 生理用ナプキンディスペンサーの公共施設への設置拡充 ・(職場) 女性が働きやすい職場づくり事業費補助金の創設 ・(啓発) 企業向け啓発セミナー(女性働きやすい環境、女性健康問題) ・(相談) 困難女性に特化したSNS相談業務 ・(育成) 働く女性のためのリスキリング講座(デジタル人材育成) ・(起業) 女性に特化した起業支援セミナー

6 結果	☒ 提案どおり進める ☐ 提案内容を一部見直して進める ☐ 再度、調査研究等を行い検討 ☐ その他	具体的内容
7 その他		